

2018年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2018年度学校自己評価」を報告するものです。

① 自己評価は次の13領域（部署）で実施した。 ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年） ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）

② 評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
- ・年度末に、実践内容について評価した。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。

③ 改善・向上策 ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

例 学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

例 学校自己評価 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

2018年度 学校自己評価中学1年 （A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中 学 1 年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「自他を大切に」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げた。1学期には「クラスの安心ルール」を作り、一人一人が尊重されるクラスの土台作りを行った。	B	*言葉上はわかっているが、実際には他とのトラブルが多くみられる時期であり、細やかな声かけ、問題の投げかけ、励ましをしていく必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 携帯の校内使用の禁止、服装・頭髪を端正にということを重視。教師間で申し合わせた。 2. 定期的に学年団内で生徒の話を取り上げ、学年の生徒は学年全体でケアするように気をつけた。	B	*特に会議を持たなくても、生徒情報が常に交換されるようになっていた。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。 3. 学習意欲が持てるように、自主学习ノート提出を呼び掛けたり、成績アップの頑張り賞を設けたりした。 4. 各考査後に成績不振の生徒に対して補い、補習を実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 5. 「理科実験講座」「英語で Cooking」「English Boot Camp」など希望者参加による講座を実施。 6. 全員受験の実力テストを学期ごと、希望者による実力テストを2、3学期に実施。 7. 百人一首大会や聖歌コンクール、レシテーションコンテストをおこない、クラスや学年全体の協調をはかった。 8. 英検3級～2級受験者対象に作文と面接指導を実施。	A	*手帳の提出等はせず、生徒がそれぞれ工夫しながら、書くことが習慣化するよう呼びかけた。うまく利用できるようになった生徒もいる一方、時間割記入だけにとどまった生徒もおお、こまめな声掛けをこれからも続けていくことが必要。 *補い生徒の補習は5教科で授業を実施するも、考査になかなか反映されず、方法の検討が必要。 *希望者参加型講座への参加者は多く、今後も必要に応じて検討していく。 *百人一首やレシテーション・聖歌コンクールも非常によく頑張っており、良い企画である。
	総合学習	中学1年生では以下の項目に取り組んだ。 1. マナー 2. 心のマナー	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. コミュニケーション上の問題が多い時期であることを念頭に、他者を理解しつつ、上手に自己主張を行えるようにする。	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを、プリントを使って学習する。 2. 他者を尊重することが、結局は自分も尊重されること、またそれを前提とした関係づくりを、中1は中1なりに考え実践する。 3. カウンセラーの梅野先生の「レジリエンス講座」を学期に1回実施。クラスでは誰もが安心して過ごせるよう、「クラスの安心ルール」を策定した。誰もが不安なく学校で過ごすことができ、学習や課外活動に集中できる環境を作る。	B	*礼法をきっちり学ばせるためには先生一人当たりの生徒数を現在の半分以下にする方がよいと思われるが、他の企画との兼ね合いもあり、難しい。 *他者とかかわりを持つうえで必要な「心のマナー」をテーマとした。これらは日常的に意識して話をしていく必要がある。

行事	1. 夏のキャンプ 2. 春の遠足 秋の校外学習 3. 芸術鑑賞	1. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 2. 自然に親しみ、友人と交流を深める。校外学習では地域学習・社会的視点の土台に企画した。 3. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。	1. 集団での過ごし方を意識する。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうようにする。 2. 春の遠足ではオリエンテーショナル的要素を取り入れ、イニシアティブゲームを学校全体使って行うことを計画。秋の校外学習では丹波篠山を探訪。 3. 1学期には「ピッコロわくわくステージ」に参加。2学期に「わくわくオーケストラ」鑑賞。	A	*春の遠足は雨天のため中止。 *夏のキャンプも台風のため、変更を余儀なくされたが、その中で可能な限り協力や自主的行動を促しながらの時間を持った。 *芸術鑑賞の機会は個人差があるようだが、学校で可能な限り機会を与える方向で検討していく必要がある。
----	---	--	---	---	--

2018年度 学校自己評価-中学2年

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> 人はそれぞれの歌を持つ 学校は間違ふところ 	1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。間違ってもいいからやってみよう。教員団も間違いを叱責するのではなく、「次から気をつけよう。大切なのは昨日の私より成長したといえること」を大切にしようということに留意した。	A	まちがってもいい、ということは他人の間違ひにも寛容であること。人間関係のトラブルを多く抱える生徒たちには、その点ももっと強く訴えてもよかった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年度が始まる前の会議で、生徒指導へのスタンスを確認。またその具体化としてガイドラインを決定。 	1. 教員の様々な価値観の中から共有できる点を議論。学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行った。	A	生徒間トラブルは小さなものから大きなものまで色々あったが、迅速に対応できた。ただし教員が研究日で不在時の対応が、後手に回ることがあった。今後の課題である。 6日制の影響は大きくは出なかったと思われるが、2学期の後半は、生徒の疲労感を感じるがあった。
	学習指導	中学2年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 中学2年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。 自主的な学習ができるように促していく。 	1. 朝礼前の5分を手帳タイムとし、自分のスケジュールの把握につとめ、計画的に学校生活を送れるよう工夫させた。教員はこまめに声をかけ励ますようにした。 2. 特に手帳を整理し、『テストレコード』をつけさせることで、テストの準備・反省を自律的に行えるよう、生徒を励ました。 3. 定期考査30点未満の生徒に、何らかの補いを行い、注意喚起をした。 4. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施した。 5. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出すことに努めた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 手帳タイムは、学期が進むにつれて、適当に扱う生徒が見られるようになった。手帳を整理する試み自体は、生徒が自分のスケジュールを自分で把握することに役立つと思われる。十二分に活用している生徒も多くいるが、うまく活用しきれない生徒も少数ながら存在する。その生徒たちに、どうすれば手帳に取り組めるか、工夫が必要である。 希望者実力に関しては、毎回少数の生徒しか参加しない。原因が何なのか、どうすれば多くの生徒が参加するのかなど、分析が必要かもしれない。
総合学習	いのちの学習 生き方≡キャリアの学習	「いのち」という、重いテーマではあるが、中学2年生は2年生なりに考えるべき問題である。学年目標である「人はそれぞれの歌を持つ」ということも深くかわることを、さまざまな体験や交流を通して、考えていく。	1. 1学期は「いのちを授かって」をテーマに、自分自身の生い立ちや、これまで人生を振り返ることにより、「いのち」について考えさせた。またその出発点として、「あかちゃん先生、ようこそ part1」を実施し、生身の赤ちゃんとそのお母さんを通して、「いのち」を感じながら、学びの時を持った。 2. 2学期は「生きるということ」をテーマに、老いることや病を抱えること、障がいを持つこと、死を迎えることなどについて知ることを通じて、生きることの意味について考えさせた。 また、障がいを持ちながら生きる人たちからも、「いのち」を考えるきっかけを与えてもらえたと考えている。具体的には、ダウン症の母子を迎えて、直にその子供や母親の声を聞き、体温を感じる機会となり、生徒は多くのことを考えることが	A	中学2年生にとっては重く、シリアスな問題も含むが、若いなら若いなりに、人生の課題を考えるために、あえて難しい問題をぶつけてみた。正解のない問いに対しても、自分で苦勞して答えを探す行為を大切にできる生徒となってほしい。 障がいを持った人、重い病氣を持つ子どもを、身近に持つ生徒もいるが、大多数はそのような人の存在を意識せずに生きている。学年目標に「人はそれぞれの歌を持つ」ということを掲げている。それは何も学校・学級の中だけの問題ではなく、社会の中の多くの人たちにまで想像を広げられる力を養うことも意味している。	

				<p>できた。</p> <p>3. 3学期は「どのように生きるか」をサブテーマに、NPO しぶたね(難病・重病の兄弟姉妹がいる子供を支援するグループ)を迎え、健康であれ病気であれ、どのような視点で支援が必要なのかを考えた。また1学期実施の「あかちゃん先生、ようこそ」の第2弾では半年後の成長の姿も見ながら、子供が育つこと、育てる意味などを考えた。</p> <p>また神戸市立看護大の学生を中心としたピアカウンセリングを実施。教員は教室に入らず、学生と生徒の対話を通して、人生の課題を考えた。学生の助言を得ながら、新しい視点で「性」「生き方」「進路」等を考えた。</p>		<p>難しい問いであるが、どのように生徒に提示するかを慎重に考えながら、来年の「戦争・平和」へとつなげたい。</p>
学年行事	<p>1. 春の遠足</p> <p>2. 海洋キャンプ</p> <p>3. 秋の校外学習</p> <p>4. 有志宿泊学習</p>	<p>生徒の目標</p> <p>1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。</p> <p>2. 協調性を育て、海洋スポーツの楽しさ、自然のすばらしさを知る。</p> <p>3. 震災の被害を学ぶ。淡路島の自然を満喫する。</p> <p>4. 普段時間の取れない理科の実験や、星空観察など興味ある事象を深めていく。</p>	<p>1. 天候が悪く中止となった。</p> <p>2. 3種類の海洋スポーツに親しみ、生活班ごとの食事や清掃の共同作業に取り組んだ。</p> <p>3. 野島断層震災記念館を訪問。実際の阪神大震災の揺れを体験したり、実際の断層を実際に観察した。</p> <p>淡路ファームパークで、自然の中でバーベキューを楽しみ、バターづくりの実習をした。</p> <p>4. 冬休みに希望者対象のカエルの解剖実習と天体観測を実施した。</p>	A	<p>各行事とも欠席者も少なく、熱心に活発に活動した。</p> <p>希望者対象のプログラムも非常に好評であった。</p>	

2018年度 学校自己評価中学3年

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「センス・オブ・ワンダー～好奇心旺盛に～」	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。	B	さまざまな場面で、もう少し、主旨を理解させ、浸透できるように啓発した方が良かった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。 生徒指導ガイドラインを作成する。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、生徒としっかりと関わる。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 学校と保護者の信頼関係を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。 6. 週に1回の学年会議(生徒情報)を行い、日々の生活面の情報交換を実施する。	B	毎週の学年会議で、生徒情報の共有ができたことは、非常に良かった。指導事項に対しても、協力して取り組めた。 保護者との協力関係も電話・メールにおいて、ある程度築かれている。
	学習指導	中学3年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学3年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。 自主的な学習ができるように促していく。 基礎学力判定試験の受験に対して、しっかり取り組みよう指導する。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。 3教科の学習を組み合わせ、授業や試験に合わせて計画的に行う。 4. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対しての「補習」を実施する。 5. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。 4. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施し、解説も行う。 5. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出す。 6. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行う。 7. 英語教室・英検対策講座など、自主的に興味を持って学べる環境を整える。 8. アドバンスト国語教室開講し、通年を通して、レベルアップを測る。	B	学びのときは、計画的に取り組まれた。国語・数学・英語・読書を基本形に、定期考査対策・英検漢検対策・聖歌コンクールの練習等であった。 補習に関しても、各教科熱心に指導していただいた。英語教室も多くの生徒が受講した。 希望者実力に関しては、受験者数の少ないことが残念である。 百人一首大会やレシテーションコンテスト等の行事はしっかり取り組めた。 英検対策講座やアドバンスト国語教室には多くの生徒が受講した。

	総合学習	平和学習 キャリアの学習	中学3年間の「社会で共生しよう～平和～」というテーマの下、平和について様々な視点から学ばせる。	1. 戦争体験を聴く会を開催し、実際に戦争を体験・経験した人からの話を聴く。 2. 被爆者講演会を実施し、実際に被爆された方の話を聴く。 3. 修学旅行において、平和公園・碑めぐり・原爆資料館・被爆体験者講話を通して、平和を考える。 4. 最後に「平和への提言」として、各自まとめて発表させる。	A	すべての企画において、生徒は熱心に取り組んだ。 平和への提言に関しても、時間はかかったが、しっかりまとめ、発表できた。
	学年行事	1. 春の遠足 2. 修学旅行 3. 百人一首大会 6. レシテーション・スピーチコンテスト	生徒の目標 1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2. 平和学習の事前学習を踏まえ、現地での平和へ思いを知る。 潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産に認定され、その過程を知る。 3. 過去の成績を踏まえ、クイーン戦を実施し、各グループで行う。 4. コースごとにテーマを設定実践する。	1. 新神戸～市ヶ原～トウェンティクロス～森林植物園～谷上のコースをゆっくりと散策する。 2. 様々な角度から平和学習を取り入れる。自然災害についても学ぶ。 3. 2年間の戦績からクイーンを4名きめて、実施する。一般はこれまでどおりに設定する。 4. 標準クラスはキング牧師の演説を発展クラスはマララ・ユサフザイさんの国連での演説を暗唱し、代表者各3名が発表しました。	A	1. は雨天のため中止となり、残念であった。 各行事とも欠席者も少なく、熱心に活発に活動した。 希望者対象のプログラムも非常に好評であった。 2. 予定通り、順調に消化できた。 3. クイーン戦を設定したため、各グループも熱戦であった。 4. しっかり努力して、全員素晴らしいスピーチであった。

2018年度 学校自己評価高校1年

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年の目標	学年目標の理解と実践	「愛」	1. 目標は教室と廊下に掲示した。学年集会・朝終礼・HRや、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促した。友人、親子など様々な愛をテーマにした映画を鑑賞した。 2. 身近な友人と過ごす際には、もちろんのこと、学年の仲間と共に学校生活を送っていることを意識させ、目標を礎にした問題解決を促した。	A	1. 今後も生徒の様子に合わせて、様々な視点、場面で意識付けていきたい。また、愛されるような人であるように努めさせたい。 2. 思いやりのある言動が見られる点もあるが、まだ十分とは言えない点もあり、根付いた目標がしっかりと実践され実を結ぶまで根気強く生徒に関わっていきたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	方針を明確にし、具体的な体制を実行する	1. 何事にも学年の教員が一丸となって取り組んだ。行事運営、生活指導、風紀指導、学習指導方針など常に共有して実行した。 2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話した。 3. クラス、授業、クラブ、行事等の場面での生徒の情報を積極的に集めて共有した。データ化し振り返りがしやすいようにまとめる工夫をした。 4. クラスの状況に合わせて、担任の方針を尊重しつつ、着地点に大きな違いが出ないように指導を続けた。 5. 学校と保護者、保護者間の連携につながる場面を大切にしたい。気になることは連絡し合える体制を作った。遅刻指導を保護者も交えて行った。	B	1. 今後も継続していきたい。 2. 状況に応じて必要な対策を迅速に行う必要がある、今後も心がけたい。 3. 学びのときの遅刻や日常の指導のデータ化、課題学習の監督者報告などの記録を継続し、活用を深めたい。 4. 今後も軸がぶれないように注意を払い、成果が出るまで継続していきたい。 5. 努力を続けている。ますます連携を深めるために、細やかなやり取りを続けたい。

	学習指導	高校1年生としての学力の定着と学習意欲の向上	高校1年で必要な学力を身に付け、学習意欲が継続し向上するよう促す	<p>1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とし、5教科の学習を授業や試験に合わせて計画的にした。今年度も5教科に加え天声人語の書き写しを導入した。定期考査前は関連内容のプリントにも取り組んだ。英検・漢検の前にはその勉強の時間とした。</p> <p>2. 放課後や長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒に対応した。大学進学を見据えた科目設定とした。英語エッセイも取り入れた。</p> <p>3. 全員受験の実力考査を学期に1回、スタディサポートを1、2学期に実施した。GTECも受験した。結果を振り返り、各自の学習態度について自覚させた。</p> <p>4. 英検・GTEC、漢検に向けて日常的、継続的に取り組ませた。授業外でも学びのときや、英語エッセイなどの学習の機会を設けるなどした。</p> <p>5. 各学期に生徒面談、夏休みに保護者面談を実施し、個々に応じたきめ細かい指導を行い、モチベーションや持続力が高まるよう働きかけた。</p> <p>6. ポートフォリオを定期考査ごとにシートに記入させた。学年末には客観的な資料を加えて個人ファイルを作成した。クラスで係を作り、小さな一歩であっても人の前に出て活動する機会を全員に与えた。</p> <p>7. 土曜日3限の課題学習では、オンライン英会話で実践的な学びの機会を得た。「高校生のための学びの基礎診断」対応の一つとして自学自習型の課題冊子に取り組んだ。自主的な学びの時間とするため、教材の管理や運営についても生徒主体となるような工夫をした。</p> <p>8. 学習への取り組みの一つとして自習室の利用を促した。</p>	<p>1. 「学びのとき」は、遅刻にも有効であった。生徒が飽きることなく取り組めるよう小さな工夫をたくさん取り入れていきたい。</p> <p>2. 答案返却期間の有効利用など今後も継続していきたい。</p> <p>3. 日常の授業の大切さを改めて心がけさせたい。家庭学習時間は依然として不足しているため、受験を意識させて家庭学習時間を増やしていきたい。</p> <p>4. 日常的、継続的な学習への意識と取り組み方の工夫を今後も促していきたい。</p> <p>5. 生活面、学習面とも取り組むべき課題の確認の場として今後も有効活用していきたい。</p> <p>6. ポートフォリオの充実を、機会を作って促す。また、クラスの係活動を続けたい。</p> <p>7. 課題学習の時間を有効に過ごす努力を重ねたい。 学習全般で自主的な学習に取り組む生徒を育てられるよう努力、工夫を続けたい。</p> <p>8. 学習時間の確保を様々な点でサポートしたい。</p>
	総合学習	「進路」・「環境」	将来や環境について考えさせる	<p>1. 講演会、体験学習などを十分に活用し、理解を深めさせた。冬休みの宿題として環境についての個人レポートの作成をした。ドミノ大会はクラス単位で作品を作り、クラスの団結を促した。「進路」進路ガイダンス、夢ナビ参加、オープンキャンパス講演会、校内オープンキャンパス、進路ライブなど 「環境」温暖化についての講演会、環境活動報告、Blue Earth Project、間伐材を利用したドミノ大会など</p> <p>2. Blue Earth Projectへの参加を奨励した。 活動例：三宮センター街イベント、東京湾大感謝祭、イオンモール神戸南イベント、ハーバーランドumie イベントの参加、モナコ訪問、講堂、教室での活動報告。</p>	<p>1. 生徒がより主体的に学ぶ場として有効に活用していきたい。学校では人との関りの中で学び、家庭では個人でレポートを仕上げるなど取り組み方にメリハリをつけたことはよかった。レポートは形態を自由としたため、立体的な作品、ブック型など工夫を凝らしたものも提出された。個人の興味関心に応じた課題への取り組み方として継続していきたい。</p> <p>2. ポートフォリオの充実を図りたいという気持ちが一歩前に出て活動に参加する背中を押したことは良かった。環境問題への意識を高める取り組みが学年でも出来たらと思う。</p>
	学年行事	校外学習・学年行事	生きた学びの場とする	<p>1. 春の校外学習で「夢ナビ」に参加し、大学で何が学べるのか情報を得た。高校入学生を含め、仲間作りの一環ともした。</p> <p>2. 秋の校外学習で、友人とともに明日香村を自転車で巡った。地図を見ながら巡るため主体性が求められた。事前学習として教室前廊下に関連図書を設置して興味関心を促した。事後学習は授業内での時間がとれず、冬休みの宿題として取り組ませた。</p> <p>3. 毎年好評である百人一首大会を、高校入学生を迎え高1でも実施した。大いに盛り上がり実施して良かった。 ※春の遠足は雨天のため中止</p>	<p>1. 春の遠足が中止になったこともあり、1学期の学年行事として設定して良かった。夏休みのオープンキャンパス参加につながられた。</p> <p>2. 主体的な学びの場面として有効であったが、時間が思うように取れない状況が残念だった。事前、事後を含め学習への十分な取り組みができる時間の確保を考えたい。</p> <p>3. 学年行事は学年作りに不可欠なので今後も機会を見つけて実施していきたい。</p>

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「怒」 「志学・志向・タリタクム」 「論語」や「聖書」にある言葉を借用して、「思いやりを持って過ごそう。」「学べ！目指せ！起きよ、目覚めよ、歩き続けよ！」と呼びかけ続け、実践を促す。	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、面談、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。 2. 友人関係上の問題が生じ、生徒たちだけで解決できない場合、担任を中心とした学年の教員も入って、解決を目指す。その際にも、思いやりや言葉の選び方の大切さについて考えさせる。 3. 目標達成に向けて行動するためには、「基本的な良い生活習慣の確立」が必須。具体的な生活管理の方法として、進路指導部から提案された「起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻の三点を固定しよう」ということを、折に触れて思い出させ、実行を促す。また今年度も、スケジュール帳の活用を促す。 4. 宿題や小テスト対策に熱心に取り組ませる。日常的に、予習、復習をさせる。発展的な自主学習にも取り組ませる。	1 B 2 B 3 B 4 B	生徒たちの思いやりのある言動は、昨年度よりも増えてきた。今後も見守りを続け、必要な場合にはこれまで同様の指導を行いたい。 生徒たちが学習その他の活動に積極的に取り組むために必要な、対人関係や精神面、身体面の安定という基盤を築くためにも、「基本的な良い生活習慣の確立」と呼びかけ続けた。なかなか確立できなかった「学習習慣」に関しては、生徒間で大きな差が生じている。今後も、呼びかけや個人的な働きかけを継続したい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に、教員間で指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。それらを、年間を通して実践する。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が一丸となって取り組む。 2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 学校と保護者、保護者間の連携を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。	1 A 2 B 3 A 4 C 5 B	1～3について。「学年の教員全員が一丸となって」という目標は、達せられた。2は、面談の頻度、濃度がクラスによって違ったので、Bとした。 4について。基準の確認は怠らなかったが、実際の風紀面等の指導で、クラスによって温度差が生じる場合があった。改めたい。 5について。努力を続けている。連携をますます深めるために、密なやり取りを続けたい。
高校 2年	学習指導	高校2年生としての学力の定着と学習意欲の向上	生徒たちが高校2年で必要な学力を身につけられるようにする。学習意欲が継続し、向上するよう、促す。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。 2. スケジュール帳の活用を促し、宿題や小テスト対策、予習、復習などの学習習慣を確立させるよう、働きかける。 3. 丁寧に予習し、授業に熱心に取り組む、復習して理解を深め、知識や考え方を定着させるよう、働きかける。良い授業を提供する。 4. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。 5. 全員受験の実力考査を学期に1回ずつ実施し、解説も行う。第2回以降は、数学・理科・地歴公民の希望者受験も実施する。 6. 英検・GTEC、漢検という目標に向かって、日常的、継続的な学習に取り組ませる。 7. 「志望理由書論述テスト」全員受験の機会を設けるなどして、意見を述べることにつながる「書く」学習への取り組みを促し、学習意欲を引き出す。 8. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行い、生徒一人一人のモチベーションや持続力が高まるよう、働きかける。	1 B 2 B 3 C 4 A 5 A 6 B 7 B 8 B	次年度には受験生となる生徒たちに、あらゆる機会を使って、より積極的な学習を行ってほしいと働きかけた。具体的には、左記1～8である。 受験して合格することはもちろん大きな目標だが、生徒たちには、知識を増やし、考え方を学び、自分の意見を述べることができるようになってほしい。 BやCは、生徒間の差、クラス間の差が生じてしまったことによる。解消させたい。

総合学習	1.震災学習 2.進路学習	生徒の目標 1.震災について知る。 被害を受けた人々、復興に取り組む人々に思いを寄せ、つながる。 2.進路・進学の情報収集し、自らの将来について考える。	生徒の実践内容 1.震災について調べる。 調べた内容をグループ内で発表し、共有する。 映像や田老地区のガイドさんからのビデオレターを見て、さらに深く感じる。 修学旅行で実際に被災地を訪れ、現地の空気を感じ、ガイドさんのお話を伺う。 グループでガイドさんへのビデオレターを作成し、送付する。 2.志望理由書作成（論述テスト受験、リライト作成）。 オープンキャンパスに出かけ、情報を集める。 進路についての説明会、進路ライブなどの講演を聞き、情報を収集する。 受験計画を立ててみる。 受験日程報告書を書いてみる。	1 A 2 B	1.修学旅行で実際に被災地を訪れ、現地で一所懸命生きておられる方々のお姿を拝見し、お話を伺った。直に得たものはたいへん大きく、学びが深まった。ビデオレターを作成、送付し、まとめとした。 2.卒業後の「自立」に向けて、高1時よりさらに具体的に準備し始めた。 たいへん熱心に取り組んだ生徒たちがいる一方で、消極的で人任せだったり、不安であるためか投げやりだったりする生徒もいる。個別の対応が必要である。面談等を活用して、積極性を培いたい。
学年行事	1.春の遠足 2.秋・東北への修学旅行	生徒の目標 1.須磨浦山上遊園で自然に親しみ、友人関係を深める。 2.東北の自然や歴史、文化について学ぶ。 震災学習「東北を訪れ、現地の方々の思いを伺う」 友人関係を深める。	生徒の実践内容 1.雨天のため、中止。 2.友人とともに、5日間東北で過ごし、用意されたプログラムをともに体験する。	2 A	2.天気にも恵まれ、たいへん良い旅となった。生徒たちは、東北の自然や歴史、文化を肌で感じた。震災学習では、現地で生きる方々の言葉を真摯に受け止めた。また、生徒たちは、集団生活に自分を合わせようとよくがんばった。おおかたの生徒が最初から時間を守り、しおり持参等の約束を守った。注意された生徒も次からは守ろうと努力した。公共のマナーを守ることにしても同様であった。朝食は、出発の準備を終えて制服姿でいただいたのだが、きりっとした態度に成長を感じ、うれしく思った。5日間を共に過ごして、友人関係は深まりもしたが、気を遣って疲労も感じていたようだ。

2018年度 学校自己評価高校3年

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高 校	学年目標	学年目標の徹底	「よく学び、 良く生きよ」 「いよいよ勝負の時、最高の努力と最善の選択をしよう」 を学年目標とする。	1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示した。 2. 学年集会、学年だより等で、この言葉の意味を伝え、それぞれが目標を達成できるよう促した。	A	6年間掲げてきた最初の目標は定着したと思われる。 もう一つの目標も進路にかける一年を表していた。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認を行い、各クラス共通の認識をもって対応をする。 2. 機会をみつけて、保護者との連絡を密に取りあう。	1. 常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。	A	職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にするとともに、学年で、共通認識を持って生徒にあたるよう心がけた。
3 年	学習指導	学力の向上	1. 授業を大切にすることを徹底させる。 2. 大学入試に対応できる力をつけるためのプログラムを放課後などを使って、個々の進路に応じて活用できるようにする。	1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。 2. 年間32回(月・土)の校内予備校を実施。(現代文・英語) 3. 朝礼前の「朝学」で、各自の課題に取り組んだ。 4. 放課後や長期休暇中に進学講座を実施。 5. 実力考査の追加科目や希望者模試を実施。	B	進学講座に関しては学年団以外の教師にも協力を求め、多くの講座を実施することができたが、長期的な計画を考える必要がある。

				6. 授業のない3学期にも進学講習を実施した。		
進路指導	目標の設定、学力の向上と進路実現	自分の適性を知り、進路目標を定めて準備し努力させる。	1. 進路説明会 4月には、年間のスケジュールを保護者と生徒に伝え、6月・9月にも実施した。また、9月・12月にはセンター試験説明会も実施した。 2. 進路調査 4月・7月・9月に3回実施。その後、複数回個人面談を実施し、それぞれの希望進路や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。夏休みには保護者との三者面談を実施した。 3. 実力考査 4月・5月・9月の3回実施。国英以外の試験も実施。7月・10月には希望者対象の実力考査を実施した。 4. 校内オープンキャンパス 高校内で、5月に松蔭大学の学科説明会と6月に外部大学・短大・専門学校の入試説明会を実施。また、看護医療系進学ガイダンスも実施した。 5. 小論文指導 入試に小論文が必要な生徒の調査をし、学年団で分担、指導した。5月には希望者対象の小論文模試を実施した。 6. 指定校推薦決定者への指導 10月の希望者対象実力考査の受験および本人の希望にあわせた資格検定の受験を必須とした。	A	3年間を見通したより長期的な受験指導をする必要がある。	
総合学習	主体的に考え判断し伝える力の養成。	1. 文章の書き方のルールを知り、自分の考えを他者に伝える。 2. 様々な問題に対して、自分の考えをまとめ、他者の意見を尊重する。	1. 1学期に意見文の書き方講座を実施し、与えられたテーマについて意見文を書いた。 2. クラスを小グループに分け、ある論題に対してディベートを行った。 3. 「生物多様性」「地球温暖化」に関わる講演会を実施した。 4. 講演会の要約と自分の意見をまとめた。	A	ディベートの論題に対して知識をもう少し深めさせる。 実践内容のつながりをもう少し意識させる。	
学年行事	遠足（ハーブ園）による心身の向上	自然に触れ、友人との親交を深めるように促す。	下見を行い入念に準備したが、雨天取りやめとなった。（新神戸で集合し、ハーブ園までの散策を予定）	B	残念ながら、当日は通常の授業となった。	
3学期プログラム	・進学講習 ・Blue Earth Project 体験プログラム ・Blue Earth Project	各自の希望に合わせたプログラムに参加し、目標の達成を目指させる。	1. 進路決定者は「Blue Earth Project」に参加するか、「Blue Earth Project 体験プログラム」に参加するかを選択した。 2. 受験継続者はセンター試験をはじめ、一般入試に向けて各自の進路に合わせた進学講習を受講した。 3. 進路決定者の中から希望者をつのり、「女子高生が社会を変える」をキャッチフレーズに、環境問題の活動に取り組むBlue Earth Projectを行った。 4. テーマは、「プラスチックごみ削減」と「生物多様性の保全、地球温暖化防止」とした。	A	3学期プログラムには、多くの生徒が真面目に取り組んでいた。進学講習では、各自の進路に向けて、前向きな学習姿勢が見られた。Blue Earth Projectでは、メンバーが環境問題へのさまざまな取り組みを企画・実行し、大きな成果を上げた。	

2018年度 学校自己評価（校務部・教務部）

（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、定期考査後の補講（学力下位層への指導）などによって、基礎学力の修得に力を入れた。	B	引き続き授業改善に努めると共に、授業についていけない生徒への学力指導について新たに検討していく。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	英語・数学などで学年に応じ、グレード別クラス、特別選抜クラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中学の放課後アドバンスト塾は月曜日、英検対策講座は水曜日、高校2、3年生対象校内予備校は月曜日と土曜日に実施した。（英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座必修。）また、長期休暇中に目的に応じた講習を設定した。	A	2018年度より6日制となり、様々な講座を再設定した。2018年度の反省を踏まえ、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施した。さらに学習意欲の向上をはかるため、スタディー・サポートを積極的に活用したり、英語検定やGTEC、漢字検定などを実施した。中学3年生は全国学力・学習状況調査や基礎学力判定試験も実施した。	A	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、よりよい対応を考えていく必要がある。また、2021年度の中学校指導要領改訂全面実施に向け、各教科での準備を促していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。高2修学旅行、中3修学旅行など、校外でのさまざまな体験、事前学習等の機会を設けた。また、主体的な学びについての研究を進めながら、具体的な実践に取り入れてもらうよう促した。	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。主体的な学びについては引き続き研究を進めながら、具体的実践を少しずつ促進していく。
	研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	職員室の中央掲示版に外部で行われている授業研修を掲示し、教員に各自で学外の研修会に積極的に参加するように促した。	C	主体的な学びを実践した研究授業やICT機器を利用した授業研修を校内での設定を検討する。外部研修会にも積極的に参加することをより奨励する。
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせる。	セント・ピーターズスクール、信明高校、聖明女子中学校への夏の派遣に向けて事前学習を行い、言語や文化について学ばせた。夏休みには聖明女子中学校が来校し、中学生同士で交流をさせた。セント・ピーターズスクール、信明高校、聖明女子中学校への生徒派遣も行った。2学期には、セント・ピーターズスクールとの春期短期交換留学の選考を行い、3学期に事前指導を行った。3学期に信明高校が来校し、ホームステイや授業交流を通して親交を深めた。	B	3月末から4月の約6週間、セント・ピーターズスクールとの春期短期交換留学を行う。夏休みのセント・ピーターズスクール、信明高校、聖明女子中学校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言語や文化の理解を深めさせる。2学期には聖明女子中学校が来校し、授業交流を行う。3学期には信明高校が来校し、ホームステイ等を通して交流を深めさせる。留学団体を通しての留学生受け入れも引き続き行う。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2018年は音楽鑑賞会を行った。音楽科の仲介のもと、ウィンドオーケストラ大阪に演奏して頂いた。普段は体験できないフルオーケストラの演奏は、生徒に音の迫力と多様さ、表現力を実感させたと考えられる。	A	来年度は古典芸術がテーマの年となり、落語の鑑賞を企画している。今後、生徒数をふまえ、施設や鑑賞の形式も変化していかなければならない。	
学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、学校行事として、体育祭・球技大会（年3回）・春の遠足（登山）・中2海洋キャンプ・中3九州修学旅行・冬休みスキーキャンプ・中1キャンプ・高2東北修学旅行等を設定した。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習なども設定した。	B	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。ただし、6日制となったこともあり、年間の各種行事のバランスを検討することが、今後必要である。	

2018年度 学校自己評価（校務部・生徒部）

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	・担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。 ・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を学年中心に積極的に行う。	B	「髪の毛をくくるよう心がける」が学年の指導の徹底もあり定着してきた。今後も継続して指導していく。服装違反する生徒はほばいない状態である。
		登下校のマナー	・交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	・日常的に登下校指導の実施。 ・関係機関と連携しながら補導活動（バス列車補導も含む）を定期的実施。 ・教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	定期的な補導週間の実施方法を変更したが、今後さらに検討の余地があると考えられる。マナー指導を含め日常の指導を継続して実施する。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	C	各担任が朝礼で貴重品を回収することの徹底。また、それ以外の時間帯では自己管理の徹底を指導する。巡回の強化。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、スクリーンショットを通じ、随時指導する。	A	講演会の実施は一定の効果をあげているが、それだけでなく日常の指導を充実させる。特に「歩きスマホ」などの利用上のマナー等は登下校指導を通じ徹底させる。
	美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除をきちんと行う。 ・文化祭、体育祭、バザー、球技大会のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	B	毎日の清掃活動はできており、各行事での美化活動も実施している。球技大会後の公共スペース掃除も少しづつ定着してきた。 3学期に大掃除の時間が取れなかった。
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。美化委員はリサイクル処理を、火曜日と金曜日に行う。	B	ゴミの分別はできているが、ゴミの減量化については、まだ意識が低い。コンビニで買った食べ物のパッケージ、校内で出る紙ごみなど、逆に増えているようにも感じる。
生徒部	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	あいさつ運動の継続。 校外清掃活動の回数の増加。 マナーアップキャンペーンやあしなが奨学金など外部のボランティア活動への積極的な参加。	B	継続してあいさつ運動をしていく。外部のキャンペーン等にも積極的に参加していく。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	体育祭運営をよりスムーズに行う。 競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	B	今後も安全かつ盛り上がる競技を検討していく。 文化祭では、生徒会と各部活の連携が向上するよう努める。
		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ゴミの分別を確実にを行う。 生徒会関係冊子の充実を努める。	B	余裕を持って連絡の掲示をする。 生徒と教員の連絡には口頭だけでなく、文書を使用する。 6日制導入に伴う変更により放課後の各委員会活動に支障がでた。次年度は昼休み等も活用して各委員会活動の活性化を図りたい。
		防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	予告しておこなう訓練と抜き打ちでおこなう訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする（地震発想想定訓練を含める）。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応	B	どのような状況でも、すみやかに避難、安全確認できるよう常日頃から心掛ける。

生徒部	安全教育			できるようにする。		
		校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	登下校時における生徒自身の安全意識を高めるよう呼びかける。
		全校生徒（特に自転車通学者）への安全の意識を高める	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、交通安全協会よりDVDを借りておこなう。登下校時の交通安全意識を高める。	A	自転車に乗っているいないに関わらず、加害者・被害者にならないよう継続して啓発する。
	応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	いざという時に的確な行動ができるよう備える。	
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。	性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の6年間に年1回は性教育を実施する。中学1年・2年・3年生、高校2年生では性教育講演会をおこなう。また、保健や家庭科の授業、総合学習と連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。	A	今年度も、発達段階に応じて系統的なテーマを設定し、性教育を実施することができた。

2018年度 学校自己評価（校務部・宗教部） (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話し当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当日を決めてもらった。 文化祭・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。 	B	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにしたい。
		オルガニスト当番	学校行事や式典のオルガニストを手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や式典が決定し次第、手配した。 できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。 	B	オルガニストへの事前確認を忘れていたことがあったので今後は注意する。
		オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> レッスン生を補充するため、オーディションを開催。2名を合格とした。 チャペルでのレッスン(基本、月1回)と聖ミカエル教会でのレッスン(基本、学期に2回)を行った。 	A	チャペルのオルガンの調子が悪いため、足用鍵盤を使っでの練習は、講堂のオルガンで行った。卒業記念品として、費用を積み立て中。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝においてオルガンレッスン生による奏楽の奉仕を定期的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教室で朝礼後、講堂へ移動することに変更し、遅刻生徒が少なくなった。 礼拝前にオルガンの奏楽をもって黙想を行い、心を落ち着けて礼拝を始めることができた。 	B	30分着席は、まだ達成出来ないが、早めに講堂へ集合し、静かに礼拝待つ体制はできてきたように思われる。
		日常礼拝の見直し	かつては週3日を集会形式、残り3日を放送礼拝、中高はその裏返しで行われていた日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 検討を重ねた。 	C	2019年度の年間の流れを見た上で、2020年度以降、礼拝の回数を増やせるように検討を続けて行く。
	特別礼拝の実施	説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていただいた。 	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
		オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。	<ul style="list-style-type: none"> 参加が決まり次第、正式な依頼をおこなった。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。 	A	連絡を密にとって、これからも連携して行っていきたい。
		式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り式次第・式文を作成した。	<ul style="list-style-type: none"> 各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。 	B	印刷作業など、部員で協力していけるようにしたい。
	クリスマス特別礼拝	燭火礼拝の形でとり行う。	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保のため、消火用の水を担任の携帯してもらい、事前注意も十分行った上で、中・高、別々に執り行った。 	A	安全に行うことができた。各担任も生徒の様子を注意深く見守り行った。	

宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・にじ作業所のパンの販売を実施した。 ・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・聖ミカエル教会をはじめ外部の教会バザーの参加者も募り実施した。 ・近隣の教会の牧師を招いてクラス講話を行った。 ・クリスマス礼拝の日の放課後、チャペルにおいて「クリスマス祝会」を企画し、演奏系文化部のミニコンサートを行った。 	A	今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。また、新たな企画についても立案・開拓していきたい。「クリスマス祝会」は、昨年度より2クラブ多い、5クラブの参加により行った。放送部中1の司会のもと行い、大変好評だった。今後も継続していきたい。
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災追悼記念礼拝を行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していきたい。新たな企画や改革も行いたい。
各奉仕活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームきしろ荘の訪問 ・震災支援バザーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える。 ・苦しい状況にある人々を忘れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の喫茶ボランティアを計画。 ・クリスマスの飾り付けを計画。 ・一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。また関係クラブにも参加協力を呼びかけた。 ・「オープンスクール」(7/14)に震災支援のためのバザーとして「冷たい飲物の売店」を出した。また同時に西日本豪雨災害への募金活動も行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は積極的に活動にとり組んでいた。茶道部の部員も喫茶ボランティアでお茶を点て、協力してくれた。 ・震災支援バザーでは各自、奉仕の精神をもちながら取り組むことができた。募金箱も自作し、多くの人に自分たちの思いを伝え、協力を仰いだ。
体験学習の実施	真生乳児院の育児体験	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期、年2期(約10回)の育児体験を土曜日の午後に実施した。 ・一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。 	A	参加生徒は積極的に活動していた。今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。	・生徒向け人権映画として、中高生同時に『ユダヤ人を救った動物園』を鑑賞し、ミニ感想文を書いてもらった。また事前の礼拝において映画の解説および関連した話しを係が行った。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触であった。今後もさまざまな啓発を続けて行きたい。
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを『チャペルニュース』を発行し、掲載した。	A	今後もよりよい形で、啓発活動を続けて行きたい。
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	教職員人権研修会として2学期始業式前に、桃山学院大学国際教養学部教授(朝鮮近代史専攻)、青野正明氏の講演会を行った。「ナショナリズムの幻想を越えて」	A	有意義な研修ができた。今後もさまざまな形で、啓発活動を続けて行きたい。
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	・キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みに東日本大震災支援のため、東北キャンプを企画したが、参加者が集まらなかった。 ・夏休みに神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画し、中高校生11名が参加した。 ・12月に行われた、小学生対象の「クリスマスの集い」で核廃絶の署名活動を有志の生徒が行った。また全学年にも署名用紙を配布して署名を集めた。 	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していきたい。
啓発文書の発行	『青谷』編集発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。 ・生徒の感想なども多く取り入れた。 	A	概ねスムーズに原稿が集まった。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう、今後も務めていきたい。
	「チャペルニュース」の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	活動写真などもおりませ、合計9回、発行した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていきたい

		「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 年間聖句および、月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計11回、教室掲示を行った。 聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。 	A	月1回の発行ができた。今後も適切な聖句を選び、生徒に紹介していきたい。
	関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災や九州・大分熊本地震の被災地支援、九州北部豪雨水害の被災地支援、西日本豪雨水害の被災地支援など、さまざまな自然災害の被災地に献金をおこなった。 春休み、東日本大震災の被災地支援として、東北被災地支援キャンプを企画し募集した。 	A	必要とされる所に献金、人的支援をこれからも続けて行っていきたい。
	チャペル名の広報	広報活動	今年度、命名された「レオノラチャペル」の名称とその命名理由を広く生徒に伝え広める。	新中学1年生には、聖書の時間のオリエンテーションで生徒に伝えたが、その他の生徒へはあまり伝えることができていなかった。	C	まずは、チャペル入口にプレートを設置したい。 また、機会があるごとにチャペル名を生徒に説明し普及を目指したい。

2018年度 学校自己評価（校務部・総務部） (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックした。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。個人情報流出防止に細心の注意をした。	A	事務室から受け取った写しを整理する。 住所録作成時のミスがないようにダブルチェック体制をとる。 住所録冊子作成の必要性について検討を進める。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数を把握する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	教室の机等を定期的に点検して、早めに発注計画を立てる。 多数の机を移動する行事が終了した直後に教室の点検をする。
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることがら(部活動・補修など)を把握する。 長期休暇中の教室利用を調整する。	通常利用一覧表と、月別の放課後教室利用一覧を掲示し、使用者に記入してもらった。 電子黒板が設置されている教室の空き状況一覧を作成し、授業で使用できるようにした。 長期休暇中については、事前に教室使用希望調査をおこない、調整した。	B	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。 長期休暇中の工事予定を勘案し、利用表を作成する。 校内イントラネットによる予約と重なりがでないようにする。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を把握する。
		不良箇所の補修	事務部・施設管理係との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の点検・見回りをする。 各学年と連携し、状況を把握する。
	情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時おこなう。 無線Lan環境を整備する。 ICT関連の将来計画を検討する。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 教職員PCの更新をおこなった。 ICT小委員会と連携し、ICT関連の将来計画を検討した。 生徒用及び教職員用のiPadを購入した。	A	ネットワークのセキュリティ面で日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。 デジタル機器の増加、システムの変更に伴い、系の体制を検討していく。
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	A	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、補充遅れをなくすとともに、コストダウンを心がける。
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫するとともに、印刷ミスした紙等の再利用をおこなう。 ICTの活用により印刷の削減を図る。 その他、ゴミの削減に努める。
	視聴覚機	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購	電子黒板のメンテナンスをおこなった。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。

	材		入する。	必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 不調の書画カメラの交換を取りやめ、別のツールへの移行をはかった。		ICT機材の導入の将来計画を検討する。 講堂の音響関係のメンテナンス計画を立てる。
	広報	ホームページ (学校の広報)	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 トップページのレイアウト等をリニューアルした。	A	学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。 公道に面した場所の掲示板を活用する。
		ハンドブック (校内のルール・約束事の周知)	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。
		学校報 (一年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
	資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。
	総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者と連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務部と連携をはかり、仕事を円滑に進めるよう努める。
		式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	B	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。
		バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTA や同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。 食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示について、漏れがないように、チェック体制を整えた。	B	食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示漏れがないように、チェックに努める。 ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。
		緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	A	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。

2018年度 学校自己評価(校務部・進路指導部)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策	
進路指導部	進	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作った。	B	総合の時間の柔軟性のある使い方を検討する。	
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。	
	路	進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。	A	大学入試制度改革に対応した指導のあり方を検討する。	
			実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。	B	学校行事と模試日程の関係から、効果的な定点観測が難しい状況であり、アセスメントの整理を図る必要がある。	
	指	進学指導の充実	実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えた。	A	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。	
			大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会で説明した。また、新しい調査書の運用に備え、生徒が自らの学びを記録する「学びと成長の記録シート」の運用を行った。	A	引き続き情報収集と情報提供に努める。	
	導	導	キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1・高2でBlue Earth ProjectチームYの活動が本格化し、多くの生徒が校外で活動した。	A	チームYの活動を継続するとともに、高3の活動にどのようにつなげるか検討が必要である。
				社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	Blue Earth Projectは今年も充実した内容を実施し、生徒達は前向きに活動した。Blue Earth Projectは、特色ある教育活動として、全国に広がっている。	A	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、少しでも多くの教員に指導スキルを継承できるようにする。

2018年度 学校自己評価（校務部・入試広報室）

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入 試 広 報 室	生徒 募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売。 低学年の方には、 図書館で在校生とのレクレーションを企画した。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～10月に3回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。毎回、紹介する内容がかわるようにした。	B	1回目、英語教育の取り組み紹介。2回目、担任教員・保護者の方・卒業生の話。3回目、Blue Earth Projectの紹介。
		授業見学会	土曜日授業がはじまったので、授業の様子を見ていただく。	オンライン英会話など、松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。	B	HPなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を体験してもらう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	A	演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、松蔭での学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。
		外部説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に宝塚・加古川・西神南・阪神西宮・三田で実施。阪神西宮を追加し、5か所で実施した。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	ご参加の人数は多くないが、実施場所を検討し、つづけていきたい。
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。 ご希望の方には施設見学も行った。 願書も受け付けた。	B	この時期には併願校をご検討する方がいらっしゃるのにつづけていきたい。
		学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対する的確な説明を心がけた。兵庫県の女子校による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。8月の私学フェスティバルには生徒も出演した。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	3月に「神戸東地区4校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和・松蔭）」を実施した。 6月に塾主催の帰国子女対象の海外での説明会に参加（蘇州、上海、香港）	B	特に他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。
		ジュニア・イングリッシュ・ディキャンプ	英語に親しみ、松蔭を知っていただく機会として実施。	外部の先生方にご協力いただき、楽しみながら英語を学習。 8月は「英語でクッキング」、10月は少しレベルの高い講座にした。	B	英語入試を実施することになり、「松蔭＝英語」のイメージを固定させたい。英検や模試など日程の重複に注意する。
	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをしやすくするよう、HPに申し込みフォームをつくる。	
	プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	英語のプレテストも実施。 ご参加人数を増やす対策が必要。	
	高校入試説明会 高校入学相談会	高校専願入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。在校生と話をする機会をより多く設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにした。	B	9月の説明会の日に警報が出て、説明会は実施したが、在校生が不在だったため、10月に説明会を追加で実施した。高校入学生に協力をお願いした。	
	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	英語教育に特化したリーフレット、中学生に配布するための高校入試ガイドを作成した。	
	情報提供 関連事項	DVDなど視聴覚物品	在校生の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	なるべく多くの方に配布する。
		中学受験雑誌記事など	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。

	新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして掲載した。	B	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	2系統のバス3台、地下鉄8、9月車内広告、阪神電車ステッカー広告、北神急行ステッカー広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	外部説明会など細かく情報を出した。レイアウトを変更し、見やすくなった。
	ノベルティグッズ等	小学生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	文房具セット	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
	塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
	中学校訪問	松蔭が高校入試を実施していることを多くの先生方に知っていただく。	高校入試用にチラシ、ガイドを作成。女子生徒への配布を依頼。	B	より多くの学校に配布を依頼し、ご来校につなげたい。
	公立中学校の先生方対象、私立高校説明会	松蔭の高校入試の概要を知っていただく。	9月に神戸市、10月に加印地区の説明会に参加した。	B	他の地区でも説明会があれば積極的に参加したい。その後の中学校訪問につなげたい。
学外教育機関への広報	塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。高校入試についても説明。	B	ご参加人数が減少してきている。塾の先生方にも興味をもっていただけるように工夫したい。
	模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	試験実施中に説明会を実施。	B	プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにした。

2018年度 学校自己評価（校務部・読書運動委員会）

（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第49回）	<ul style="list-style-type: none"> 読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2018年度は「道」。 テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 優秀作を図書館に展示。 国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を11月アセンブリーで表彰。 各学年の最優秀作品は、第46回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：特選1作、入選2作。高校：特選（1位）1作、入選2作。高校入選作のうちの1作は、第64回青少年読書感想文兵庫県コンクールにおいて兵庫県学校図書館協議会賞を受賞。 第49回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。 	A	<p>今年度も、どの学年も、生徒が興味を持てるような課題を設定してくれた。充実した推薦図書リストも出来上がった。また、「道」という言葉は様々な解釈可能で、思春期にある生徒たちに様々な種類の課題を提供できると考えた。</p> <p>例年どおり、教員の思いに応じて、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。一方で、読書に興味を持っていない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、さらに教職員の協力を求めたい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 個人の嗜好に合わせた情報の発信の可能性も探りたい。 読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 読書運動冊子の活用法の検討。
			読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得して、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。 2月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。 	A	<p>たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。</p>
			ゴールドカード・プラチナカードの表彰 その他			

	生徒が図書館を有効に利用できるようにする。 生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。	総合学習等の調べ学習の際の利用。 授業での利用。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。 中1、中2国語力の授業の一環として「絵本の読み聞かせ」を行った。 要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。 図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用役に役立ててほしい。 自習時間の利用にも対応した。 	B	各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。
		図書館利用のルールを理解、遵守。	<ul style="list-style-type: none"> 新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。 日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。 	A	時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。
		広報等	<ul style="list-style-type: none"> 図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、図書館クイズを掲載し、各種イベントの案内をした。 絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、レジンのチャーム作り、読書みくじ、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー（夏休み宿題お助け講座）等の各種イベントや、読書会を企画し、実施した。今後も実施していく予定。 高3卒業待機プログラムの一環として、司書体験活動を実施した。 ボランティア司書の活動（生徒の有志で第2・第4水曜の昼休み、書評や読書イベントの企画等） チャリティブックバザーの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。 「筒井台中学校2年生受け入れ協力ボランティア」に協力して、司書体験を支援、指導した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「はと時計」のますますの充実を目指す。 積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	<ul style="list-style-type: none"> 係による定期的な選書を行った。 書店へ出向いての選書（全教職員、教育実習生対象）を企画、実施した。 リクエスト本について、随時審議した。 	A	より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。

